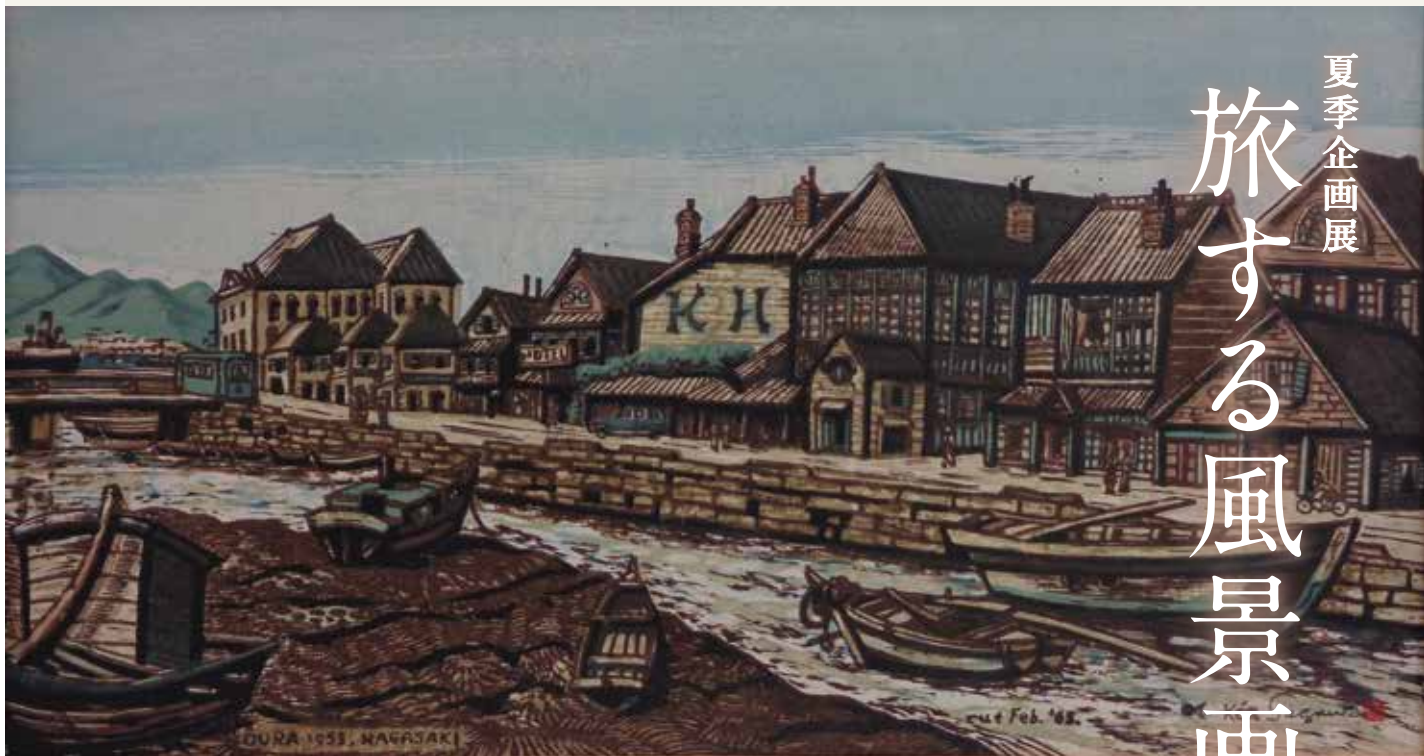


夏季企画展

旅する風景画



田川 憲《うらぶれた居留地》1965年制作 木版画

長崎ゆかりの版画家・田川憲は、唐寺や居留地、高台から望む港など異国情緒ある長崎の風景を多数、描きました。1965年制作の《うらぶれた居留地》は、長崎市内の大浦川沿いの風景を主題としています。通りに並ぶ木造の建物にはHOTELの看板があり、車や人の姿も確認できます。画面の前景を占める川には木造の船が並び、川を少し下ったところへ弁天橋が架かっています。そのすぐ傍を路面電車が走り、画面の左奥には港に浮かぶ大きな船も見えます。ゆったりとした時間の流れを感じさせる落ち着いた作品には、古き良き長崎の風景を慈しむ田川の想いが込められています。本作は、現在開催中の夏季企画展「旅する風景画」にて公開しています。本展では他にも、油彩画、日本画などによる風景画10点を季節展示室、絵画展示室1、ホワイエにおいて公開中です。

また、近代洋画、日本画、陶磁器、ロシアアイコンなど約140点の常設展示も行っております。

※企画展の会期は、次回展の都合により変更する場合があります

田川 憲(たがわ・けん) 1906～1967。長崎市生まれ。高校卒業後に洋画家を志して上京、恩地孝四郎に出会い創作版画に転向。1933年に帰郷し「詩と版画の会」を結成、版画誌刊行や講習会開催など長崎での創作版画の普及に尽力。戦時中は従軍画家として中国へ渡り、戦後は再び長崎を拠点に洋館や唐寺などが残る長崎の風景を数多く描き残した。2018年長崎県美術館にて回顧展開催。

開催中

2025
9/6
(土)

まで

十八親和アートギャラリー

鑑賞 無料

【開館時間】10:00～16:00(入館は15:30まで)

【休館日】日・月・祝日、年末年始(12/30～1/4)

※土曜日が祝日の場合は開館



長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F TEL.0956-23-4856 西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分、JR佐世保駅から徒歩約20分